

編集後記

理念は「現場に届ける」

第7号も、巻頭を飾るのは「石田ゆき論文」です。第5号からシリーズで掲載しています。どんな雑誌でも、連載を担当するには、それに相当する力量が必要です。石田論文では、実践する力と実践を論文化する力が存分に發揮されています。

本研究誌の理念は「現場に届ける」です。石田論文には、現場での実践に役立つノウハウや考え方方が満載です。石田の実践フィールドは大学です。しかし、看図アプローチは汎用性の高い方法です。本研究誌を読んでいただいている大学以外の先生方にも、石田論文から多くのヒントを受け取っていただけると思います。

看図アプローチ、法学教育界への初上陸

「バカは法学部に行け(笑)。提出されたパターンに対して、パターンどおりに反応する。」これは、作家三田誠広著『深くておいしい小説の書き方(2000、集英社p.31)』に出てくる文章です。刺激の強い文章ですが、「(笑)」と入っていますから、半分くらいは冗談なのでしょう。しかし、かなり本気で言っている感じもします。私たちも「法学」に対しては硬いイメージをもっていました。法学にアクティブラーニングはなじまないのではないかと思っていました。ところが、法学の授業づくりを考え始めたら、そういう印象はまったく違うということに気がつきました。法律の世界には、看図アプローチが入っていける絶妙な「ツボ」がたくさんあることが分かりました。

そういう「ツボ」をいくつか取り上げて、法学教育の世界を探検してみました。その探検記が、本研究誌2番目の論文です。自分で書いておいてなんですが、今後の発展がうかがえる、可能性に満ちた論文になっています。

多職種連携を成功させる看図アプローチ

3本目の論文は「全国看図アプローチ研究会」連続開催の報告です。のべ120名に及ぶ先生方の参加をいただき、盛会となりました。発表内容を「看護教育」に特化した研究会でしたが、看護教育以外の先生方が半数以上参加してくださいました。参加された先生方には、看護教育での研究成果を、各自の専門領域へ持ち帰っていただきました。

今回の研究会では「多職種連携」もテーマになっていました。多職種にわたる先生方に参加いただきことで、看図アプローチは多職種連携を実現していくためのツールにもなることが確かめられました。この報告書は、石田ゆき編集長がまとめてくれました。臨場感あふれる報告になっています。ぜひお読みください。各地で行われている看図アプローチ実践・研究を共有していただければ幸いです。

文責 鹿内信善

———— 全国看図アプローチ研究会研究誌 7 号 ————

発行年月日 2021 年 4 月 13 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員
石田 ゆき
伊藤 公紀
鹿内 信善 *
萩尾耕太郎
山下雅佳実
渡辺 聰
(* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会 
kanzu-approach.com

事務局長 山下雅佳実 (中村学園大学短期大学部)

編集長・DTP 石田ゆき